

令和7年度日本大学大学院生産工学研究科
筆記試験問題の出題意図について

試験方式・期	一般入学試験（第1期）
専攻／科目	建築工学専攻／建築構造学

大問1
大問1は3問の小問から構成されており、建築物を支える骨組みの種類として、建築構造学の基礎となる鉄筋コンクリート構造、木質構造、鉄骨構造の特徴を説明できるかどうか基本的な事項の理解を記述式で問う問題である。 （1）鉄筋コンクリート構造の床スラブの設計について曲げモーメントなど応力分布の基本的な知識を問うている。 （2）木質構造における主要な部材となる通し柱および隅柱の性質について基本的な知識を問うている。 （3）鉄骨構造における鋼材の降伏比など機械的性質について基本的な知識を問うている。

大問2
建築構造力学および材料力学に関する基本的な理解を問う問題である。

大問3
建築構造力学に関する基本的な理解を問う問題である。

令和7年度日本大学大学院生産工学研究科
筆記試験問題の出題意図について

試験方式・期	一般入学試験（第1期）
専攻／科目	建築工学専攻／建築防災工学

大問1
過去に日本国内で発生した災害全般に対する基礎知識を問うている。

大問2
過去に日本国内だけでなく世界で発生した地震災害に対する基礎知識を問うている。

大問3
振動工学ならびに地震工学で用いられる基礎的な用語に関する英語の知識を問うている。

大問4
振動に関する基礎的な知識と計算力を問うている。

令和7年度日本大学大学院生産工学研究科
筆記試験問題の出題意図について

試験方式・期	一般入学試験（第1期）
専攻／科目	建築工学専攻／建築材料学

大問2
建築における主要構造材料の1つである鉄鋼について、材料と温度の基礎的な物性の関係の理解を問う。出題形式は、穴埋め問題である。

大問3
建築における主要材料の1つである木材について、木材の水分と木材の性質の基礎的な関係の理解について問う。出題形式は、穴埋め問題である。

大問4
建築における主要材料の1つである左官材料について、構成材料や左官材料の基本的な特性の理解について問う。出題形式は、穴埋め問題である。

大問5
建築における主要材料の1つである防水材について、メンブレン防水材料の種類の違いによる特徴、線防水の種類や目地の理解について問う。出題形式は、穴埋め問題である。

大問6
各種建築材料の主な性質の理解について問う。出題形式は、穴埋め問題である。

令和7年度日本大学大学院生産工学研究科
筆記試験問題の出題意図について

試験方式・期	一般入学試験（第1期）
専攻／科目	建築工学専攻／建築計画

大問1
この設問は記述式の設問で、建物の長寿命化に関する知識を評価するために出題した。

大問2
この設問は記述式の設問で、建物を計画する際の全体構成や室配置の概要を決定する基本的な方法に関する知識を評価するために出題した。

大問3
この設問は記述式の設問で、近年公共施設の発注方式として多く用いられているプロポーザルコンペの有効性と課題を整理して説明できるかという点を評価するために出題したものである。

大問4
この設問は記述式の設問で、住宅のライフサイクルを踏まえて、断熱改修・耐震性向上・バリアフリー化工事と共に増えている「減築」の社会的状況の理解を評価するために出題したものである。

令和7年度日本大学大学院生産工学研究科
筆記試験問題の出題意図について

試験方式・期	一般入学試験（第1期）
専攻／科目	建築工学専攻／都市計画

大問1
<ul style="list-style-type: none">・ 穴埋め式の問題形式・ 都市計画の成り立ち，基本的な概念，歴史の変遷，現代的課題などに関する理解・ 都市計画に関連する基礎的な知識を問う

大問2
<ul style="list-style-type: none">・ 記述式の問題形式・ 都市計画に関する具体的な手法に関する理解・ 都市計画の手法に関する基礎的な知識を問う

大問3
<ul style="list-style-type: none">・ 記述式の問題形式・ 都市計画に関する具体的な用語（英語）に関する理解・ 都市計画の用語（英語）に関する基礎的な知識を問う

令和7年度日本大学大学院生産工学研究科
筆記試験問題の出題意図について

試験方式・期	一般入学試験（第1期）
専攻／科目	建築工学専攻／建築環境工学（建築設備を含む）

大問1
<p>建築環境工学（建築設備を含む）分野の基礎的な用語、現象、指標、計算、設計手法などについて幅広く問う穴埋め問題です。音環境、熱環境、空気環境、照明、色彩など、学部教育で修得すべき重要トピックを網羅しています。</p> <p>各設問では、用語や定義の暗記だけでなく、現象の意味や物理的な背景、建築設計・運用における実践的配慮への理解力を評価することを目的としています。</p>